自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401763		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホームよろこびの家日吉 2階(柏ユニット)		
所在地	北海道函館市日吉町3丁目20番25号		
自己評価作成日	令和6年8月20日	評価結果市町村受理日	令和7年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設の理念は「自由・笑顔・安心」です。
 職員各々がそれを心に留め、日々業務に就いております。
 住宅街に位置している土地柄、近隣住民とコミュニケーションを図りやすい環境にあります。
 近年は感染症の流行という懸念により大掛かりな祭り等は行なえておりませんが、近隣住民とは日常のご挨拶や冬季の雪かき時など積極的にコミュニケーションを図り、運営推進会議へ町内会の方をお呼びするなど、日々地域密着に力を入れています。
 委員会等も定期的に開催しており、「事故防止委員会」「身体拘束廃止委員会」「入居判定会議」「処遇改善委員会」「研修委員会」等を行い、さらに情報の共有、サービスの向上に取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0171401763-00&ServiceCd=320
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和 7年 1月 29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常、職員同士のコミュニケーションの際に話題に出し、常に意識・共有することで「自由・笑顔・安心」を一人一人が日々自然と実践できるよう取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以外の感染症も流行しており地域行事への参加は未だ見送っていますが、散歩や庭の草取りの際に近隣住民と交わす挨拶等、僅かなきっかけから生まれる地域住人との繋がりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、認知症や高齢者介護等についてや、入居者様の生き活きたご様子の情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年に6回開催し、参加者の意見・提案・要望・疑問等伺い、職員全員に共有しサービス向上・業務改善のための検討材料としている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への案内・参加を通じて当施設のことを知って頂き、日常業務で生じた疑問を電話で問い合わせる等、協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の委員を選出し、リモートで委員会へ参加している。その会議で様々な事例・解決策などを知り、他職員への共有・指導を行なっている。施錠は防犯上の理由で夜間(遅番終業後から早番出勤前の間)のみ行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リモートで行なわれる虐待防止委員会にて、虐待の有無の確認や勉強会を行い、委員が管理者への報告や他職員へ、書面等で内容を伝達している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設で利用者様に成年後見人を立てる話が挙げられた際、2階ユニット職員の内輪で勉強会を行った。今後は運営推進会議の議題に選ぶ等して学ぶ機会を増やしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	雰囲気を見て頂くため入居前の見学をお勧めしている。契約内容や重要説明事項は契約者様に分かり易い表現を使うよう気を付け、疑問点を質問しやすい雰囲気の説明し、不明点の確認もしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常業務内で収集した情報や感じた疑問・受けた苦情等を月一度のスタッフ会議で検討課題として挙げ、原因究明や解決策を話し合い、共有している。御家族から頂いた質問等の場合は結論をお知らせしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で検討し可決されたもの以外でも、業務に関する提案や改善策があれば職員は自由に管理者へ意見している。管理者は代表者と連絡が取れる体制なので適宜報告や相談を行い、可能な範囲で意見を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の経験・スキル・適正を考慮し仕事を割り振り、各々が向上心を持って業務に臨めるよう努めている。不安・不満があれば説明や解決策を提示している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行なう研修だけでなく、外部研修の告知・共有を積極的に行っている。最近よりリモートで行なう研修も多く、その時間を確保できるよう取り計らっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症流行で機会は減ったが、他施設への見学会や様々な研修に参加する事で情報の共有、サービスの質向上に努めている。またそのような場の情報を積極的に共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安や要望、困っている事など伺い、時には言葉に出していない気持ちも汲み取り信頼関係を築き、安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は、利用者様の入居前にフェイスシート確認や面談した職員の話を聞いて意見交換を行い、検討を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様にとって今必要なサービスを見極め提供し、様子を見ながら過不足の調整を行なっている、的確に提供できるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に置き、利用者様の残存機能を活かし、出来る事は行なって頂くことを重点に支援をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況について、御家族面会時には主に日常のご様子を伝え、報告や相談が必要と判断されたことは面会を待たず電話連絡をして都度情報共有を行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	去年まではコロナやその他感染症の懸念から面会はガラス越しのみで行なっていたが、現在は一度に2～3人・15分程度で居室やホールでの面会可としている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やカラオケ等のアクティビティや家事等を利用者様と職員が一緒に行いながら、例えば大きなシーツを2名の利用者様を指名して一緒に畳んでもらう等で取り持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了前に、ご本人に必要な支援やご家族の不安への進言をし、次の支援者へ伝達している。可能であれば転居先や入院先へご様子を伺いに行くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションや御家族に伺った情報から入居者様の思いを把握し、職員同士で意見交換・情報共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族やそれまでお世話になっていたケアマネに情報を頂く等し、ご本人の話も伺い状況を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や支援経過にて職員が日々の経過について情報の整理・共有を行い、統一したケアを行えるよう心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活で気付いた事は引き継ぎ時等に話題に挙げ、すぐ解決できるものは他職員にも経過が分かるよう共有し、難しいものはスタッフ会議で話し合い、現状に即したケアに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や引き継ぎ書には必ず目を通し、長期に渡るであろう事柄は専用のノートを作る等、情報や対応漏れがないよう様々な工夫をして日々のケアに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のADLや精神面を日常からよく観察し、その時のニーズにより様々な対応を皆で検討もしくは管理者へ相談し、実行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議への参加や、感染症流行の影響で規模縮小していたが、避難訓練への参加も徐々に従来通り行なっていく。また、ご本人の状況に応じて行政機関などと連携をとり、様々な方面から支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医があれば可能な限りお連れしている。しかしご本人の状況が変わった場合や、特にご希望はないが受診が必要と判断した場合は状況に即した病院や往診をご提案することもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の医療連携看護師による健康管理時に、日常で捉えた些細な変化をすぐに報告している。他にも必要時は24時間体制で、看護師へ電話相談し適切な助言を受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院の際は、こちらから定期的に病棟へ様子伺いの電話連絡を入れたり面会に行くなど、病院関係者との情報交換積極的に行い状況把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の医師を尊重する事を最も重要視している。穏やかに最期の時を迎えられるよう、ご本人・ご家族の希望を汲み取れるよう、お話を伺い情報収集をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを用意し職員間で情報共有している。日常の話題としても挙げ確認し、常に意識をもって実践に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行っている避難訓練(火災想定)を活かし、避難経路の確保・入居者の身体状況・近隣の避難場所の確認を職員間でしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や尊厳を尊重する為、入居者様には警護を基本とした言葉使いや声掛けを意識し、接している。入居者様に対し最も合う言葉掛けをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、体操をするかしないか、飲み物は温かいものが良いか冷たいものがいいか等、自己決定して頂けるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングの共有スペースに居たい方、居室で過ごしたい方、家事などの活動をしたい方等、ご希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に合わせた、また個人の生活や好みに合わせた衣服の選択が出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が同じ場で同じ物を食べ、感染症に気を配った席配置で軽い会話をしながら楽しく食している。嫌いな物がある方へは盛り付けの工夫をしている。食器洗いやテーブル拭き等、可能な方は参加されている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録を活用し、利用者様各人の食事量・水分量を把握している。それに沿って個人に合わせた摂取目安を職員が共有し、支援している。水分制限のある方は、1回分の提供量や回数を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、残存機能を見極めて自立(声掛け)～全介助までそれぞれに合った口腔ケアを実施している。歯ブラシや義歯ブラシだけでなく、舌ブラシや、うがいの難しい方には濯がなくても良いジェル状歯磨きも活用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、それぞれの排泄パターンを把握している。また排泄失敗等の状況を職員間で密に共有し、快適に排泄をして頂けるよう声掛け誘導や、トイレ外から見守る等羞恥心に配慮しながら介助を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	従来の排便パターンや体質、原因となり得ることを考えて運動や水分摂取促し、オリーブオイルの活用を行なっている。また、医療連携の看護師に報告し、腹部マッサージを依頼することもある。なるべく下剤を使用しないのが良いと考えているが、排便困難な方は医師へ排便コントロールの相談をする。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様個々の好みや持病、その日の体調に合わせて一般浴・シャワー浴の選択や、入浴中の様子や疲労度等を見極め入浴時間の調整を行なっている。また、入浴中の会話もコミュニケーションの一環として楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、就寝まではゆったりとリラックスして頂けるよう、自由な時間を提供している。介助の必要な方は就寝リズムを把握した上で、時間を見ての誘導や、眠そうな様子を察知し就寝介助を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が受診報告や薬剤情報を読む等し内容把握・共有している。新たに処方された時や種類・用量の変更があった際は、いつも以上に様子観察するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報やご本人との会話等で積極的にコミュニケーションを図り個人の好みを知り、一緒に歌う、家事を行なう等している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防の観点からドライブレクや受診以外の外出はほぼ行なえていないが、外の空気を吸い気分転換を図れるよう、ベランダでのレクを企画・実施している。以前はレク以外でも少人数ずつ近場の散歩(徒歩や車椅子)などしていた。また、コロナ5類変更後からはご家族との外出可としており、ご要望があった際は事前の外出準備をご本人様と行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前はご自分で金銭管理していた方も居られたが、現在は認知症により自己管理が難しい方ばかりなので、トラブル防止の為事務所金庫でお預かりし、ご家族同意の下ご本人に必要な物を職員が代行購入している。以前はご本人の希望があれば職員同伴にて買い物に出ていたが、感染症流行後は予防の観点から現在のところは職員代行のみとしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は携帯電話を使用し自由に電話されている利用者様も居られたが、現在は所持する方が居られない為、電話のご要望には事務所電話をご使用頂いている。ご家族から電話が掛かってきた際には、状況を見てご本人と通話可能な事をご案内している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるよう努めている	季節や節句等に合わせてリビングの装飾替えを行ない、快適に過ごせるよう空調や換気等の環境作りにも努めている。寒がり・暑がりな利用者様の把握もし、声掛け・確認のうえ衣類やブランケットでの温度調整を行なっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと居室の行き来は自由にして頂いている。リビングではテレビ視聴されたり、入居者様同士で談話を行なう等されている。入居者様同士がトラブルなく関わりあえるよう職員が見守り、必要があればトラブルに発展する前に職員が介入し未然に防ぐこともある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事前の施設見学を推奨している。食器や何点かの物(家具・写真・小物等)はお手持ちの物をお持ち頂き、使い慣れた・見慣れた物が手元にある安心感を重視している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで各所に手すりが設けられ、歩行が不安定な方でも安全に移動できる。状態によっては歩行器をご用意したり、居室に戻られる際の目印になるよう花をつける、目に入りやすい位置に案内の紙を貼る等、利用者様の困り事を察知した際は職員間で共有し、意見を出し合い工夫している。		